



田村市立都路中学校

学校だより 第17号

平成30年 1月15日 (月)
発行責任者：校長 田中 淳一
TEL：0247-75-2009

めざす生徒像：・夢や志をもつ生徒 ・自ら学び考える生徒 ・心身ともに健康な生徒
めざす学校像：・夢や志を育む学校 ・学び合い、高め合う学校 ・信頼され、愛される学校

後期後半が始まりました

17日間の冬季休業が終了し、1月9日(火)から後期後半がスタートしました。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言われます。1月から3月までの授業日は、3年生が45日、1・2年生が52日と、1年間の中で最も短い授業期間です。しかし、3年生にとっては、自分の志を実現させるための大切なプロセスである高校入試があり、9年間の義務教育を修了し、都路から外の世界へと羽ばたく、人生の転機となる期間です。1・2年生にとっても、この1年の成果と課題を振り返るとともに、進級を見据えた準備をする大切な期間です。学校にとっても、新年度のスタートに備える重要な期間となります。全校集会では、校長講話、各学年代表生徒の意見発表を行いました。代表生徒からは、冬休みに努力したこと、今年目標、コミュニケーション能力について考えていることなどが発表されました。校長講話では、全校生に次のような話をしました。



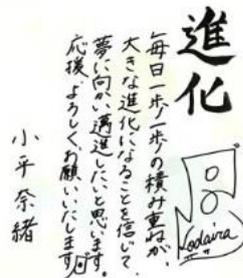
「用意された環境を歩くのは好きじゃない。自分で選び失敗も成功も受け入れる。」

これは、個人のオリンピック種目では日本女子初の世界記録を出した、スピードスケートの小平奈緒(こだいらなお)選手の言葉です。小平選手は、スケートの盛んな長野県茅野市で生まれ、3歳でスケート靴を履きました。高校卒業後は、地元の信州大学へ進学しました。二度のオリンピック出場を果たしましたが、個人種目の表彰台を逃すと、2014年から単身でスピードスケート大国のオランダへ渡りました。2シーズンにわたってプロチームに加わり、辞書を片手にスピードスケートを学びました。小平選手は、背中を丸めて、低い腰の位置から刃全体で氷をとらえてスケーティングします。練習仲間がオランダ語で、「怒れる猫」と呼ぶしなやかで力強い滑りに、オランダでの努力の成果が現れています。



「明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ。」

2月の平昌(ピョンチャン)オリンピックへ向けて、インド独立の父ガンジーの言葉を引き、小平選手は抱負を述べました。成長への飽くなき欲望と感性の幅の広さが、30歳を超えてなお進化を続ける小平選手の原動力となっています。小平選手が自ら単身でオランダへ渡ったように、自分の普段いるところとは異なる環境に身を置くことは重要です。自分とはこんな人間だろうと思いついて、いろいろな価値観やものの考え方が入ってきて、自分が拡張されていく。そんな学びの機会が、中学生の皆さんにもできる限りたくさんあるといいと考えています。



「昨日の自分を超えてゆけ。」1年生も、2年生も、そして3年生も、飽くなき「自分への挑戦」によって、実り多い一年にしてください。

後期後半も、本校生徒のさらなる成長のために、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

租税教室を開きました

12月20日（水）5校時は、3年生を対象にした租税教室（社会科）を実施しました。講師は、昨年度キャリア教育講演会でお世話になった、税理士の宗像住孝先生でした。生徒の中には、小学校時代も含めると、宗像先生のお話を聴くのが3回目となる生徒もいました。今日の講義では、「景気」「富の再分配」などの、税金が世の中で果たす役割について教えていただきました。分かりやすい具体例と、ユーモアを交えながらのお話だったので、生徒たちは楽しく学ぶことができました。



立志式が行われました

1月11日（木）、市内中学2年生を対象に、市文化センターにおいて立志式（主催：田村市）が行われました。立志式は、将来の自分を見据え、進路実現・自己実現に向けて揺ぎない努力をしようとする志を確立する機会として行われています。ただし、本当の意味での立志とは、自分はこれから何をしたいのか、自分なりの答えを自分で見つけることができることだと思います。「なぜその仕事をしたいのか。なぜそう思うのか。」と、自分と向き合い、突き詰めて考えないと、自分の可能性に気付くことができないとともに、本当にやりたいことは見つかりません。他者の判断基準で進路を決めるのではなく、信念を持ち、自分の人生に納得して突き進まなければ、困難を乗り越えることはできないでしょう。他人に迷惑をかけないことを前提に、自分のやりたいことを見つけ、それを実現するために、自分の可能性を發揮できる場（居場所）をつくる。可能ならば、それを大きく広げていく。それが最終的に、社会に貢献することにつながっていけばいいのではないのでしょうか。立志式に参加した中学生たちは、市民憲章の唱和や礼法について、厳粛な態度で立派に行うことができました。式の後には講演会が開催され、新たな価値観に触れる良い機会となりました。



家庭学習の充実をめざして

子どもたちの学力向上を図るために、学校では授業改善に取り組むとともに、家庭学習の充実を課題と捉えています。先日、リーフレット「ふくしまの家庭学習スタンダード」（県教育委員会発行）を各家庭に配付しました。小学校とも連携して、このリーフレットを活用しながら、「心の支え」「環境づくり」「習慣づくり」を家庭・地域の皆さんにお願いし、子どもたちの家庭学習の改善を図っていきたいと考えていますので、大切に保管をお願いいたします。

